

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和4年度第4回戸田市外部評価委員会 (施策3 児童・青少年の育成環境の充実)
開催日時	令和4年8月5日(金)午前10時00分 ~ 午前11時36分
開催方法	Web会議
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	こども健やか部 次長 安部 孝良 児童青少年課 課長 田村 利子 主幹 尾里 篤史
事務局	石橋部長 佐藤次長 甲原課長 石嶋主幹
議 題	1 外部評価委員紹介 2 担当部局紹介 3 外部評価ヒアリング
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	・次第及びタイムテーブル ・施策評価シート及び事務事業評価シート ・ロジック・モデルシート(令和3年度版) ・事前質問及び回答

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開 会</p> <p>2 外部評価委員紹介 各委員の紹介を行った。</p> <p>3 担当部局紹介 評価対象施策担当部局の紹介を行った。</p> <p>4 外部評価ヒアリング</p> <p>○施策の概要 担当者 概要説明を行った。</p> <p>○事務事業の妥当性、施策指標の妥当性 委員 施策の目的に「家庭・地域・学校・行政が一体となり」とあるが、行政が主導となり居場所を提供する事業が施策の中心となっていると思うが、一体となるということがどのように反映されているのか。</p> <p>担当者 「家庭・地域・学校・行政が一体となり」について、例えば、放課後子ども教室事業では、学校の施設を使いながら、地域の方々がスタッフとして運営しており、事業内容を保護者に理解いただきながら小学生が利用している。また、青少年の居場所事業については、学校を通じて小学生、中学生に周知し、スタッフが見守りながら安心して子供たちが利用できるものである。行政としては、このような事業を進めつつ、青少年団体に対して補助を行うなど、様々な事業に対して、学校、地域、家庭の全てが関わることで、事業が成り立っている。</p> <p>委員 1点目は、放課後子ども教室について、希望者は誰でも参加できるのか。以前、某市の放課後子ども教室で化学実験の教室を開催させてもらったが、知っていれば行きたかったという声が多かったので、質問する。 2点目は、プリムローズとこどもの国についてだが、子どもの居場所・子</p>

<p>担当者</p>	<p>育てについては、第4次総合振興計画の頃から満足度の評価が高い。非常に良いと思うが、2か所ということで、利用できる児童が限られてしまうのではないかと、今後の展開について教えてほしい。</p> <p>1点目の放課後子ども教室については、小学生が対象となっている。今は、コロナで中止しているが、通常は、年度初めに小学生全員にチラシを配っており、申込みの際に、保険料を徴収している。また、ホームページ等で周知している。例えば、学校の規模やスタッフの数も限られることから、なるべく利用できる児童が平等になるようスタッフが配慮しながら運営している。</p> <p>2点目のプリムローズとこどもの国については、人気の高い施設であり、笹目地区のプリムローズと戸田公園駅近くのこどもの国の近くに住んでいる児童は、よく利用していると思うが、施設から遠くに住む児童については、自分たちだけでは行けないという点は、確かにある。そういったこともあり、青少年の居場所事業を展開している。</p> <p>新たに大きい施設を検討するというのは、見通しが立たないため、各事業で補っていきたいと考えており、今後、児童センターだけではなく、子どもの居場所事業を市として進めていく予定があるため、広く利用してもらいたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>1点目の質問は、事前質問No9の学童保育室事業に関して、学童保育室事業というのは、子育ての分野として、大変重要な施策だと感じている。未就学児は保育所や幼稚園、小学校の児童は学童ということで、子育てに優しい自治体というところが若い世代の人口流入を呼び込む象徴的な施策であり、しっかりやってほしいと感じている。また、指標の定員数を拡大して待機者を作らないことは、一番大事である。ただ、質の問題として、ニーズ対応の調査をしていないと書かれているが、第5次総合振興計画の中では、ニーズを的確にとらえて、しっかりと中身の充実をしていくという取り組み方針が記されている中、定数に加えて、質の部分についても指標を立てるべきではないか。</p> <p>2点目は、事前質問No10に関する青少年の居場所事業は、周知を徹底して利用促進を図るということだが、青少年の居場所事業が所与となり、これを押し売りしていると感じる。市場のニーズ、本当にこの世代、特に高校</p>

<p>担当者</p>	<p>生などが、居場所を求めているのかどうか。という点も含めて、あるいは、青少年の育成という最終成果につながっていないのではないかと考える。もう一つ、パレットルームなどの学校などに通えない生徒の学習補助や不登校者への支援など、所管が違うのかもしれないが、児童センターとの関連性などをどのように考えているのか。</p> <p>学童保育室事業については、皆様からのアンケートなどは取れておらず、現状、指定管理の学童保育室における指定管理者としてのアンケートを行っている。多くの公立学童保育室でのアンケートは、実施しておらず、保護者からの声を参考に動いているような状況であるため、今後、多くの声を聴いていけるようにしていきたい。</p> <p>質について、特に公立学童は、指導員と補助員が保育しているが、高齢化が進んでおり、子供と遊んでいる時に怪我をしてしまうことがある。また、多動など配慮が必要な児童をどのように対応したら良いかなど、欠けている部分だと感じている。高齢化を踏まえつつ、今後、少しでも学童保育の質を向上する取組を進めていきたい。</p> <p>青少年の居場所事業のニーズについては、青少年の居場所事業は、遊ぶ場所が決まっていない児童が安全に遊べる場所の提供として、福祉センターなどで開催をしている。そういった中で、高校生の利用は少ないが、福祉センターなど、体育館がある施設で体を動かしたいという高校生や中学生が多くいるので、そこを利用したいというニーズはある。遊びの中で、小学生から高校生まで一緒に交流することもあり、大学生のスタッフが上手く誘導することで、家庭や学校ではない関係で遊べるのが、青少年の居場所事業の大きな目的でもある。そういったことは少ないと感じるかもしれないが、一つ一つ積み上げていくことで、地域の小学生から高校生までの多くの年代が関わっていく場所の提供でもあり、引き続き、事業を進めていきたいと考えている。</p> <p>不登校、学習支援と児童センターの関わりについては、児童センターの対象は、18歳の年度末までの児童としていることから、学校や家にも居たくないなどの悩みを抱えた児童が来ることもあり、施設職員が話かけるなど、そのような児童にも居やすい場になるように意識した施設作りをしているが、不登校対策といった観点からは、関係各所との連携が必要であると感じ</p>
------------	--

<p>委員</p>	<p>ている。</p> <p>指標の妥当性に関する質問で、戸田市は子どもが増加している。施策指標の目標値の算出では、児童センターは年間1%増、青少年の居場所事業は年間0.6%増となっているが、子どもの増加割合と合っているのか。つまり、子どもが年間2%増えているのであれば、1%ずつ増えたとしてもカバー率は下がっていくことになるので、増加割合がどのようになっているのかが、1点目の質問である。</p> <p>ロジック・モデルシートについての質問となる。青少年の居場所事業では、活動がスタッフを募集するになっている。資源を投入するために、スタッフを入れるのではなくて、活動としてスタッフを募集するとなっている。活動には、アウトプットとアウトカムがあり、活動のアウトカムが居場所の利用なのか、という点が疑問であるため、2点目の質問としたい。</p> <p>3点目として、小学生、中学生、高校生という子ども達が元気に活動する場所を考えると児童館や公園がある。各自治体で様々な取組をしているが、例えば、安心して公園で遊べるプレイパークなどもある。安心して遊べる、元気に遊べるという点を考えた時に、施策の中で、公園のプレイパークといったような事業に組み込まれているのか。</p>
<p>担当者</p>	<p>子どもの増加割合と指標の増加割合が同じかという点について、現状、戸田市の子どもの数は、小学生低学年が、ピークである。指標の増加については、これまでの増加傾向から、児童数の増減に合わせて設定しているものではない。社会情勢が変わってきており、1年生だと50%程度が民間の学童や塾、スポーツクラブに通っている地域もあれば、30%程度が学童保育室に通っている地域など、地域差があることから、以前の伸びを参考に設定している。</p> <p>また、ロジック・モデルシートで、利用者数を載せているが、そういったことを見直すということであれば、事務事業の中で、今後、考えていきたい。</p> <p>プレイパークについて、こどもの国では、委託としてプレイパークのような取組をこどもの国敷地内の庭で実施しているが、プレイパークは良い活動であるため、今後の参考にしていきたい。</p>

委員	<p>活動が募集となっているが、成果としては、何になるのか。スタッフが入ることによるコミュニティ作りにまで言及があったので、そこまで組み込まれている事業なのか。異年齢のコミュニティ作りということであれば、理解できるが、そこまで考えているのかを確認したい。</p>
担当者	<p>青少年の居場所事業を運営するためにスタッフを募集している。地域への広がりという点ではない。</p>
委員長	<p>「スタッフを募集する」は、放課後子ども教室事業にもあるが、先ほどの説明で地域と一体となって、と説明があった。そこをアウトカムとして捉えるのであれば、違ったロジック・モデルが書けるということだが、そうではないのか。</p>
担当者	<p>青少年の居場所事業についての説明であり、大学生スタッフを募集して居場所を運営することが目的である。放課後子ども教室事業については、地域の方に子ども達と触れ合ってほしいという観点で、地域の方とのコミュニケーションという意味はある。</p>
委員長	<p>地域の担い手の確保が課題になっているというわけであれば、募集した結果、充足できたかどうか、というような観点からのアウトカムなどが設定されていないように読み取れたので、単なる投入資源としてスタッフを投入しているのか、どうなのかという点を確認したい。</p>
担当者	<p>放課後子ども教室事業について、地域に広がりという点は、重要であるが、ロジック・モデルシートでは、その広がりが表現できていないと考える。</p>
委員	<p>事前質問No 11の児童センターの来園者数について、一番知りたかったのは保護者の人数である。地域コミュニティを形成するという点が大きな目標であるが、ロジック・モデルシートの中に記載がない。どのような成果があったのかを振り返る場合、来園者数だけでは内容・実情は評価できないのではないか、という意味である。</p>

担当者	<p>こどもの国とプリムローズは、子育て支援イベントを行っており、参加者も多く、そこで知り合った方との交流や育児の意見交換などを行っている点も本来は、ロジック・モデルシートに記していれば良かったが、表現できていなかった。</p>
委員	<p>そのような大きな目標に対する成果も分かるようにしていただきたい。</p>
石田委員	<p>放課後子ども教室事業について、子ども達からアンケートを取り、事業を進めているのか。また、人気の授業は、どういったものがあるのか。</p> <p>公立の学童保育室については、高齢の方が多とのことだが、支援員以外に地域の方や大学生などの若い方も参加しているのか。</p>
担当者	<p>現在、放課後子ども教室事業については、アンケートを取っていないため、申込みの際に、保護者の意見を聴けるようにしていきたい。人気の講座は、地域の高齢者が教える昔遊びであり、参加した児童は喜んでいる。</p> <p>学童保育室については、夏休みの期間に大学生を募集しているが、今年度あまり集まらず、困っている。若い方は外遊びで元気に一緒になって遊んでくれるため、子どもも喜ぶので、今後も、大学等に募集をかけていきたい。</p>
委員	<p>放課後子ども教室事業について、2点質問する。</p> <p>空き教室を利用して行っているとのことだが、学校によっては、空き教室がない場合もある。その場合の対応は、どのようにしているのか。</p> <p>放課後子ども教室事業に、私も関わっているが、再開していない。再開したいという学校もあると思うが、一斉でないで再開できないのか、一か所でもやりたいという学校があれば、可能なのか。</p>
担当者	<p>放課後子ども教室事業については、空き教室が少なく確保が難しいところである。放課後子ども教室のコーディネーターが学校と交渉し、空き教室を借りたり、校庭で遊んだりすることもある。また、感染症により、令和2年度から中止している。小学校においても課外授業ができるようになってきたと聞いているが、また、感染症が流行しているという状況である。放課後子ども教室は密になりやすいので、今後、安全に過ごせる方法についても、コ</p>

	<p>ーディネーター会議などで、検討していく。今のところ、各学校で個別の開催は考えておらず、小学校全体として、開催できるかを交渉していくこととなるが、学校側としても学校内で感染が広がってしまうという懸念もあり、いかに安全に開催できるかという点をよく検討したい。</p> <p>○資源の方向性</p> <p>委員 小学生以下を対象にした事業が多いと感じる。青少年の居場所事業、青少年の健全育成事業などあるが、例えば、スタッフの募集や広報を行うなど記載があるが、具体的には、重要度はどのようになっているのか。</p> <p>中には、成人式の方法を変えてみる、という記載もあったが、そのような取組についての重要度やどのような方向性を考えているのか。</p> <p>青少年の居場所事業の中で、青少年の広場があるが、スポーツ・レクリエーションとの連携はあるのか。</p> <p>担当者 児童センターでは、0歳から18歳(18歳になる年度の年度末)までと、広く対象としているが、中でも小さい子どもの利用が多い。学童保育室は、小学生が対象であり、放課後子ども教室も小学生を対象としている。青少年健全育成事業については、小学校高学年から大学生まで関わりがあり、成人式の実行委員会などの取組を行っている。青少年健全育成事業は、青少年の団体が市内にいくつかあり、活動しやすいように市の事務的な支援や、補助金の交付による支援を行っている。小さい子ども以外の対象ということでは、青少年健全育成事業の比重が重くなっている。</p> <p>青少年の居場所事業としては、居場所と広場がある。青少年の広場については、ボールで遊べる広場で市内に3か所ある。ボールで遊べる場所が少ないことから、コロナ禍でも利用者が延びている。来た方が自由に使える場所として、取り組んでいるため、個別の団体によるイベントなどは、考えていない。</p> <p>委員 青少年の広場において、スポーツ・レクリエーションなどと連携して行うという点については、特段、考えていないという理解で良いか</p> <p>担当者 広場が3つしかなく、来た方がその場で遊べるという状況を作っておきた</p>
--	---

	<p>い。多くの方が参加できるイベントを開催できたら良いが、現時点ではボール遊びができる場所が少ないので、ボール遊びをしたい方が来た時に、いつでも使えるという状況を維持することを考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>学童保育室は、事務事業評価シートでは市の直営と記載がある。単独直営でなくてはならないということが、条例で定められているのかどうかは、分からないが、各自治体が工夫し、直営から指定管理や委託に移行するなどの方法があるものとする。今後、施設整備における資金の投入によって、増減はあり得るが、人件費については、今後の方向性をみても常勤5名、非常勤約50名体制を維持していくようだが、直営でやると設定している理由はなにか。</p>
<p>担当者</p>	<p>市による単独直営だけと記載があるが、民間学童保育室も戸田市にはある。市が管理する学童保育室は25室あり、その中の4室は、委託のような形で実施している。むつみ学童の2室は業務委託、こどもの国学童の2室は、指定管理で行っている。その他に民間学童保育室が25室あり、補助金を交付し、各事業者が運営をしている状況であり、事務事業評価シートの記載誤りである。</p> <p>小学校に施設がある公立学童保育室について、非常勤職員51名は市が任用しているが、人手不足が常態化しており、民間活力の投入を検討するとともに、不足人員は派遣職員で補っている。民間活力については、今後も引き続き、検討していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>民間委託をする理由の1つに、トータルコストを軽減するという議論がある一方で、行政が持っていない専門性が必要であるという議論もある。これは、価格を下げるという要素ではなく、専門性を高めることである。現在、直営と委託21対4で、やっているとのことだが、市全体の行財政改革の財政健全化としては、委託への移行の議論はなく、現状維持という理解でよいのか。</p>
<p>担当者</p>	<p>行財政改革としての回答はできないが、委託による人件費の削減については検討すべき内容である一方で、専門性について、本来的には考えていく必</p>

	<p>要があるとする。民間学童保育室の事業者は、他の地域でも保育園や学童保育室を行っており、運営に関するノウハウがある。また、小学校とも上手く連携しており、民間学童保育室などの活用は考えていく方向である。</p>
委員	<p>行財政改革の計画の中で示されているのであれば、その情報をインプットして議論しなくてはならないため、質問したものである。事務局から、補足があれば、教えてほしい。</p>
事務局	<p>戸田市行財政改革大綱に直営施設を委託に移行するという項目はないが、総括的に各事務事業の手法を検討しながら、よりよい手法を見つけていくという観点から、民間活力についても検討する旨は記載されている。</p>
委員	<p>施策3の中で、青少年の居場所事業は、優先度が低いのではないかと感じている。事務事業評価シートの事業費では、今後、横ばいで予算計上をされている。スタッフを増やさなければという状況で、予算をかけずに利用者数を増やしていくという理解でよいか。</p>
担当者	<p>青少年の居場所事業については、スタッフには謝礼を渡しており、有償になる。また、放課後子ども教室のスタッフにも謝礼を渡している。</p>
委員	<p>この人件費には計上されていない点について、理解した。</p>
委員	<p>○その他</p> <p>事務事業評価シートの目標達成状況に記載している指標について、プリムローズとこどもの国ともに利用者数と施設修繕件数にしている。目標達成状況の分析としては、こどもの国はB、プリムローズはAとし、利用者数は両施設ともに増えている。修繕件数は、ロジック・モデルシートの中にも入っているが、両施設とも同じように修繕をすれば良いのか。片方は、建設後、数十年経っているが、もう片方は、建設後、数年という状況の中、両施設ともに修繕件数を目標2件としている。他の指標があるべきなのではないのか。</p>

担当者	<p>プリムローズとこどもの国は、建築年数が異なり、プリムローズは建設して30年近くになり、こどもの国は、開館が平成27年度である。プリムローズは老朽化が進んでいることから、計画的に修繕すべきところを見つけることが大事である。</p> <p>また、こどもの国については、建築してから年数が浅いということもあり、令和3年度の修繕実績は0件だが、修繕すべきところが、あるかもしれないという観点で注視していかなければならないと考えている。</p>
委員	<p>修繕が指標となっている点が気になる。ほかに良い点を示す指標、あるいは、活動の中にもっと入れておくべきものがあるのではないかと感じたため、質問をしたところである。無理やり修繕する場所を探すというのが、指標として適当か、疑問に感じている。</p>
委員長	<p>施策の所管は児童青少年課となっているが、本当にこれでいいのか。他にも関係課があるのではないかと考えている。もし、当課だけだとすると、このロジック・モデルシートは課内で検討して作ったということか。</p> <p>2018年にロジック・モデルを作る職員研修を丸2日間やったが、それに参加していたか。</p> <p>記載はないが、実際は、第4次から第5次総合振興計画に移行するプロセスで、関係課と議論してロジック・モデルシートを作ったということか。</p>
担当者	<p>関係課としては、教育委員会があるが、基本的には児童青少年課の事業である。例えば、教室の使用など、関係性はあるが、児童青少年課でロジック・モデルシートを作っている。</p>
委員長	<p>事業は、そうだが、施策から事業を見た場合、施策の成果を実現するための手段として、既存事業がふさわしいのかどうか、過不足はないのかどうか、そのような視点で議論する場合は、児童青少年課だけでは物足りないと思う。そういった観点で質問を付け加えると、この施策はどのような社会問題を解決するための施策なのか、そこが非常に重要である。</p>
担当者	<p>この施策については、子ども達が学校の生活や家庭の生活などが別々にな</p>

	<p>ってしまうのではなく、総合的に子ども達が健全に育っていくためには、どう いうことをしたら良いかということが重要となり、それに対する施策であ る。</p>
委員長	<p>総合的というのが重要で、総合振興計画の冊子にも記載されているが、 児童虐待、いじめ、少年による重大事件、SNS 等による誘拐などの社会的問 題を解決するための施策であると感じている。そうだとすると、児童青少年 課だけではなく、関係課と総合的に行わないと無理ではないか。</p>
担当者	<p>計画の策定時、例えば、非行防止に関しては、非行防止の活動をしている 青少年団体があるので、そのようなつながりを重視した形になっている。</p>
委員長	<p>そうであるならば、施策3のロジック・モデルシートに記載されている最 終成果は、正しいとは言えないのではないか。</p> <p>2017年にも外部評価の対象になった施策で、その時も児童・青少年が 心身ともに健全にしている状態が施策における成果であるという答えだっ たが、現行の総合振興計画にも同様のことが書いてあるので、基本的には変 わっていないという理解でよいか。</p> <p>単に環境・場所の充実ではなく、充実させた結果、健全に成長している状 態が、目指すべき姿だとしたら、それを測るための指標が、ロジック・モデ ルシートに黄色でマーキングされている3つの指標でふさわしいのかとい うと、利用者数では測れないと考えるが、どうか。</p>
担当者	<p>健全育成という理由で最終成果としていたが、健全育成というものがどう いったものか、改めて考えなければいけない。</p>
委員長	<p>ぜひ、検討し、適切な指標を設定していただきたい。</p>
	<p>5 閉 会</p>